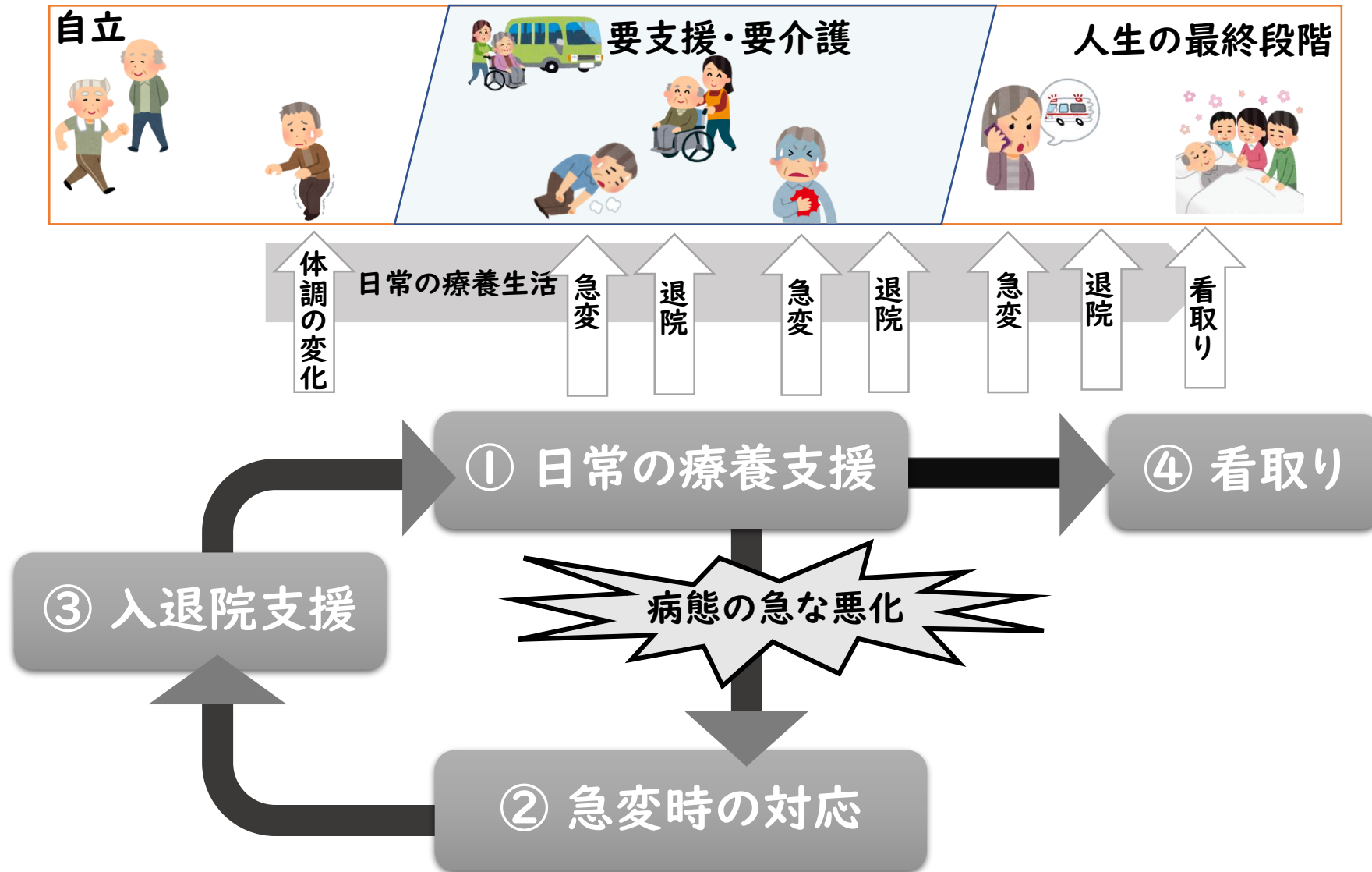


高齢者の状態像変化のイメージと 医療と介護の連携が求められる4つの場面

ちようふ在宅医療相談室



多職種連携を図りつつ、24時間体制で在宅医療を提供

ちようふ在宅医療相談室

調布市の目指す姿

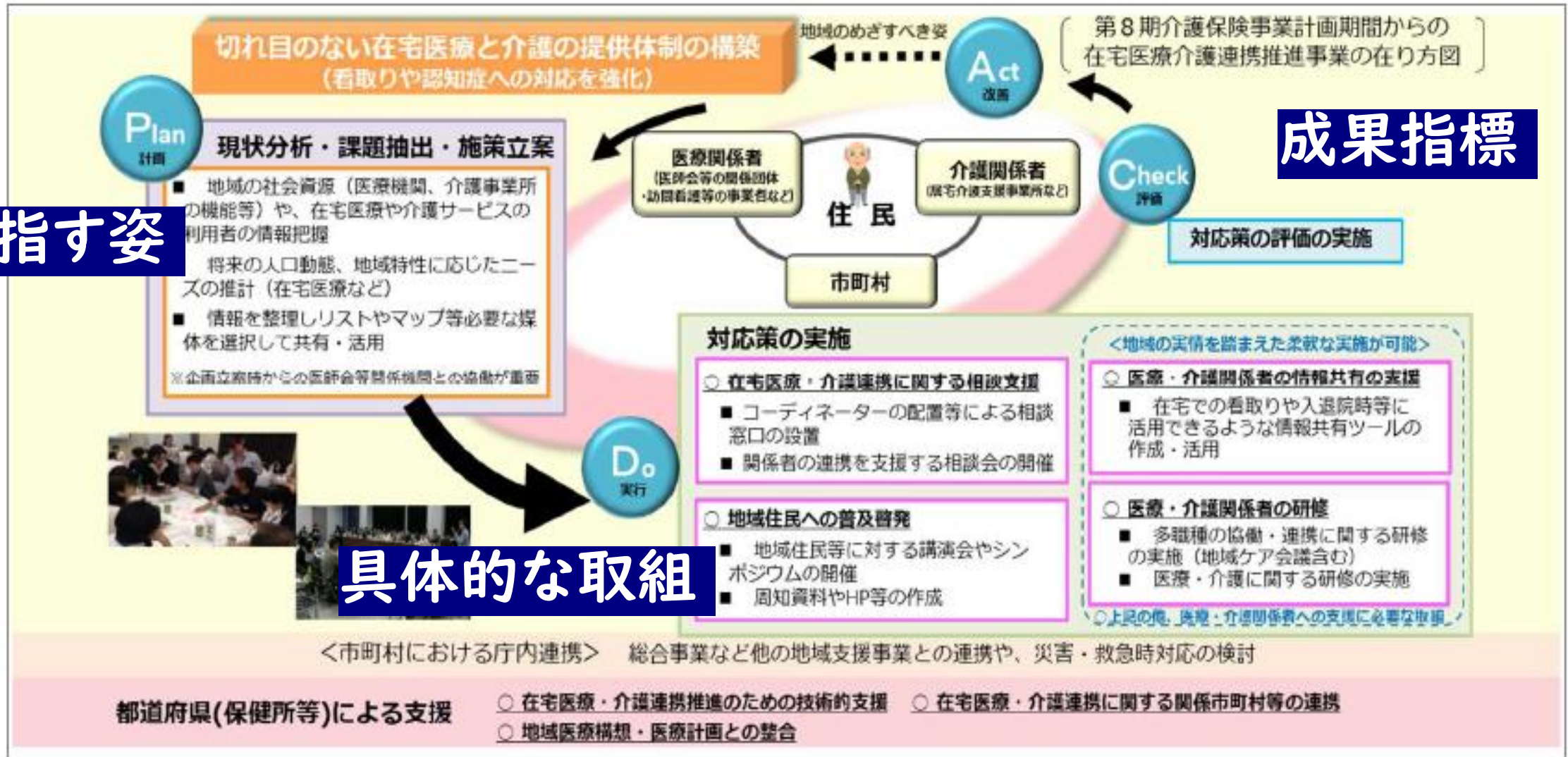
日常の療養支援	市民が適切に外来診療・在宅医療を受け、生活を継続できる
入退院支援	本人の望む場所に戻り、支援を受けながら不安なく生活を再開する
急変時の対応	急変時に適切に救急要請が行われ、本人の意思が尊重された治療を受けることができる
看取り	本人の望む場所で、不安なく最期を迎える

PDCAサイクルに沿った取組のイメージ

目指す姿

成果指標

具体的な取組



相談員（在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター）に求められる役割



「あなたが望む療養生活を実現するために」

切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制を構築するため
医療と介護をつなぐ

個別支援・関係者からのヒアリング・地域活動等をとおして、
メゾ・マクロの視点で地域の課題を明らかにします

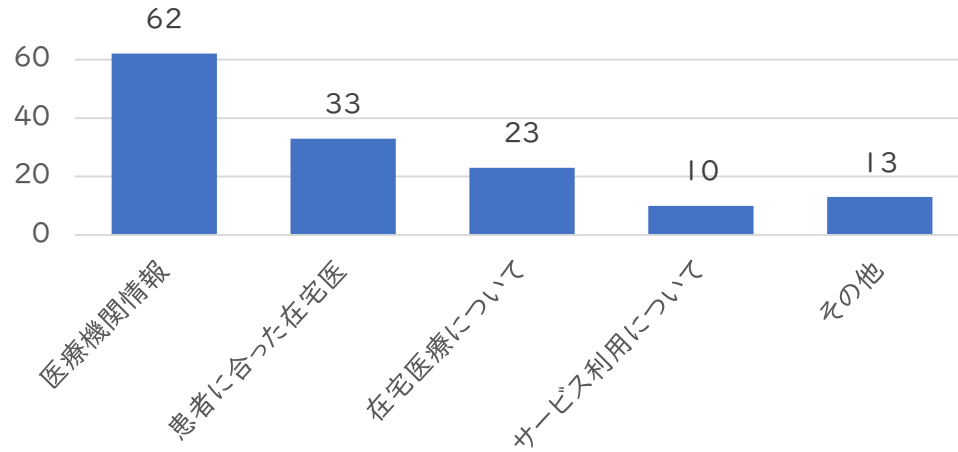
目的達成（現状を目指す姿に近づける）のため、多職種で協働します

地域包括ケアシステムを構築していきます

相談業務

2025年度実績

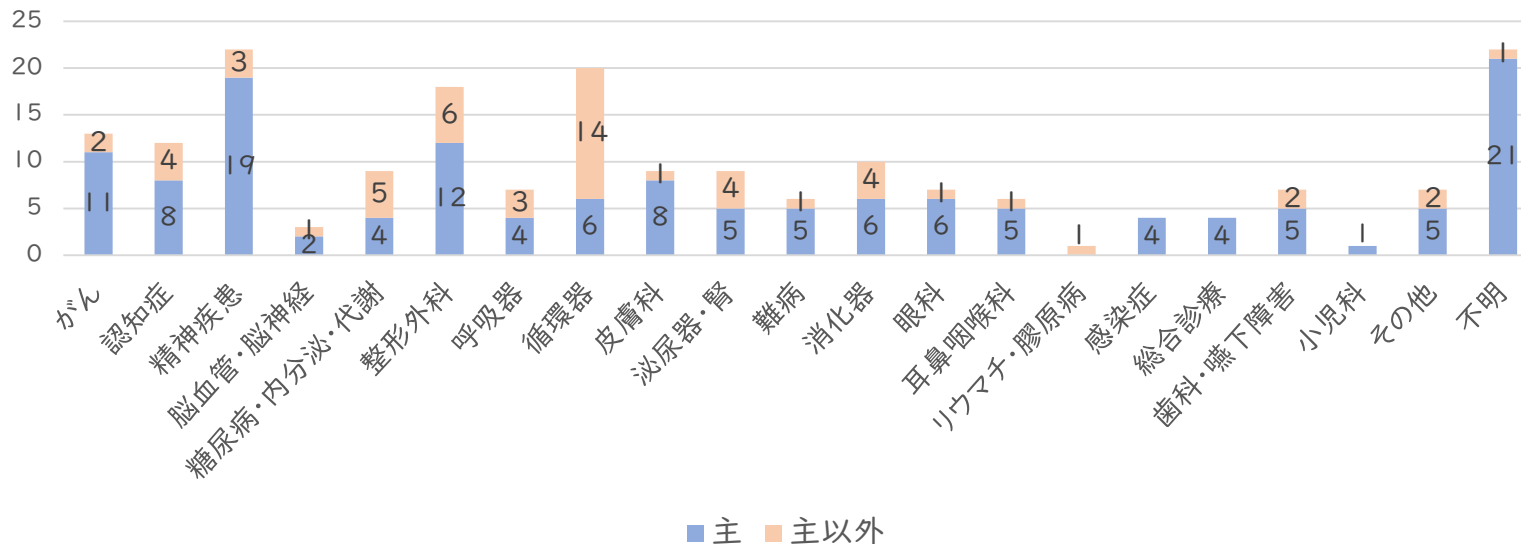
内容の内訳



【傾向】

- 本人・家族からの相談が約半数
- 若年層の相談（関係者、家族）、精神疾患に関する相談が多かった
- ここ数年、障害福祉関係各所からの相談が一定数入っている

疾患別（複数回答可）



相談業務から地域課題を
抽出
↓
対応策を考える

ACPの普及啓発

	課題
地域	ACPを「 <u>自分事として考える</u> 」ことの難しさ
地域包括支援センター	講師を招聘する <u>予算には限りがある</u> <u>講義内容を考えるのは難しい</u>
啓発する包括職員	ACPの <u>知識・経験の差が大</u>

包括が
市民啓発に使用する

調布市在宅医療・介護連携推進事業の取組として

ACP普及啓発プログラム (調布市版)を作ろう!

➡ 2022年度に検討し、2023年度から実施

ACPの普及啓発

実施状況

	プログラム使用				プログラム未使用		人数 総合計
	実施回数	もしバナ ゲームあり	もしバナ ゲームなし	人数	実施回数	人数	
R5(2023)年度	16	15	1	164	1	32	196
R6(2024)年度	14	12	2	169	2	36	205
R7(2025)年度	11	10	1	164	3	43	207
合計	41回			497名	6回	111名	608名

実施目的

- 既存の10筋グループ、ケアラーカフェ
- 出前講座、介護教室、公民館の講座
- ひだまりサロン
- 民生・児童委員、地域包括支援センターの広報協力員向け

ACPの普及啓発 ～参加者の感想（自由記述）から～

《2025年度カテゴリー別集計》 ※1つの感想が複数カテゴリーにまたがる場合は重複カウント

カテゴリ	内容の概要	件数
対話・グループワークの良さ	小人数／知らない人とも話せてよかった／他者の価値観を知ることで自分を見つめ直せた／グループワークが楽しい	24
自己理解・気づき	自分の価値観・死生観に気づいた／選んだカードが自分の人生観を表していた／心の整理ができた	22
ACPの理解・重要性の実感	ACP・人生会議の大切さがわかった	15
家族と話したい・伝えたい	子ども・配偶者と話したい／メモを残したい	9
もしバナゲームの有効性・楽しさ	楽しい／カードで考えが整理された／気軽に取り組める／価値観の違いが見えて興味深い	24
繰り返しの必要性・その時々で変化	何度もやりたい／その日の気分や状況で変わる	10
地域・一般高齢者へ広げたい	地域に必要／一般高齢者にも広げたい	7
不安・課題	カードが難しい／家族に話すタイミングが難しい／その時どう感じるか不安	5

- ・ 話す場があることへの満足度が高い
- ・ ACPの理解が深まり、必要性を実感している
→「説明」ではなく「対話の場」を提供することで市民に届くのではないかな？
- ・ リピート開催（年1回など）の要望がある
→ACPは一度やったら終わりではなく、繰り返すことが大切だということを理解したからではないかな？

ICTによる多職種連携の推進

なぜ、ICTによる医療介護連携が必要なのか？



病院内では多職種連携し、チーム医療を行っている
同じことを地域で！

電話しても訪問中で話せない

患者宅の連絡ノートは
タイムリーに情報を得られない

誰かに連絡しても
伝言ゲームのようにな
り、
正しく伝わらない…

地域の多職種の事業所が一丸となってチーム医療を実現するため、ICTを活用

ICTによる多職種連携の推進

メディカルケアステーション (MCS) とは

医療介護従事者、患者家族のための
非公開型SNSです。

今まで電話やFAX等で行われていた
コミュニケーションをSNS上で実現することで、
医療・介護の効率改善、質の向上を目指します。

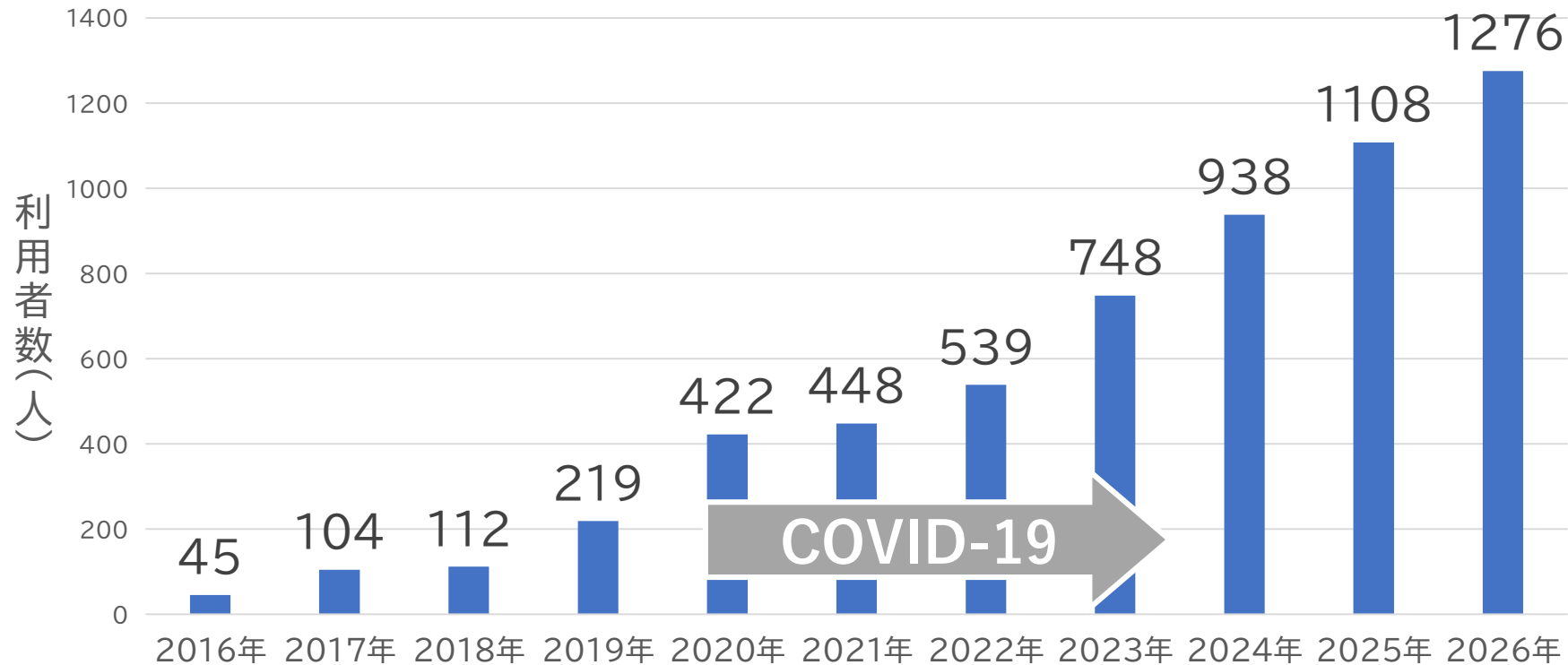


★調布市ではMCS
(メディカル・ケア・ス
テーション)を採用

★近隣市区はMCS
を利用している自治
体が多い

ICTによる多職種連携の推進

市内MCS利用者数の推移



医療・介護業界はFAX文化が根強いが、調布市は比較的、ICTによる連携が進んでいる

医療・介護関係者の研修（多職種研修会の開催）

今まで取り組めていなかった【急変時の対応】を取り上げたい

多職種研修会ワーキンググループを結成（メンバーも多職種）

医療・介護・福祉関係者へ急変時の連携に関する事前アンケート実施

アンケート結果を基にグループワーク事例を作成

- ・ 緊急性の判断について
- ・ 相談先
- ・ 市内にあったら良い仕組み など

多職種研修会開催

多職種で語り合う
急変時連携の今とこれから

日時・会場 2025年 19:00～21:00
11月21日(金) たづくり12階大会議場

※ 調布市内で医療・介護・福祉にかかわる専門職 ※ 10名程度

こんな経験ありませんか？

外実中の緊急相談に
対応するのは
大変なんですよね。

利用者が
いつもと違う様子！
誰に相談すればよい？
緊急要請したほうがよい？

人間の出発はなく
家に帰るように
言われたけれど

何度も救急車で来る
けど、連絡で何とかならないのかな？

地域の救急医療の現状を共有し、何ができるか考えましょう

急変時の多職種連携に関する調査の報告
～8月実施のアンケート調査から見えるもの～
ちょうふ在宅医療相談室 相談員

救急受け入れの実態
～北多摩南西部地域の現状と調布東山病院の救急体制～
調布東山病院 副院長 中村中かり先生

安心して地域で過ごすために
～対策を考えるグループワーク～ ※議題（仮定）の事例検討
調布在宅医療・介護連携推進協議会 多職種研修会ワーキンググループ・ファシリテーター

申し込み 11月12日(水)締切 <https://x.gd/jtptc>

主催 公益社団法人 調布市医師会
ちょうふ在宅医療相談室 TEL 042-480-2751



多職種で語り合う
～急変時連携の今とこれから～

内容

1. アンケート結果の報告
2. 救急受け入れ実態の報告
(市内の二次救急病院から)
3. グループワーク 安心して地域で
過ごすために何ができるか？